

令和5年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	✓

活動団体名：NPO法人大月地域資源活用協議会

活動地域：高知県大月町

活動におけるテーマ

『複数のぼちぼち山業で豊かな生活スタイルで暮らしている人を増やす』

活動団体および活動地域の紹介

活動地域の紹介

- ・養殖漁業、農業が盛んな地域
- ・海岸部を中心に足摺宇和海国立公園に指定されていて、釣りやダイビングなどマリンアクティビティが盛ん
- ・伝統産業である土佐備長炭の生産を行っています

R5年度、農林水産省などが選定する「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」で、グランプリに次ぐ優秀賞と特別賞に選ばれる。炭の原料となるウバメガシの植樹などで、持続的な生産に尽力していることなどが評価されました。



活動団体の紹介

NPO法人大月地域資源活用協議会では、大月町で「当たり前なもの」として見過ごされてきた地域の宝を探し、その恵みを次世代へ渡すために色々な取り組みを支えています。

Ex)カヤック、観光ガイド、へんろ古道の活用、自伐型林業etc…



ぼちぼち山業プロジェクト 運営チーム

・元大月町地域
おこし協力隊

・備長炭生産組合事務局長
・町会議員

・生物多様性の保全・
気候変動(海の温暖化)に関する専門家

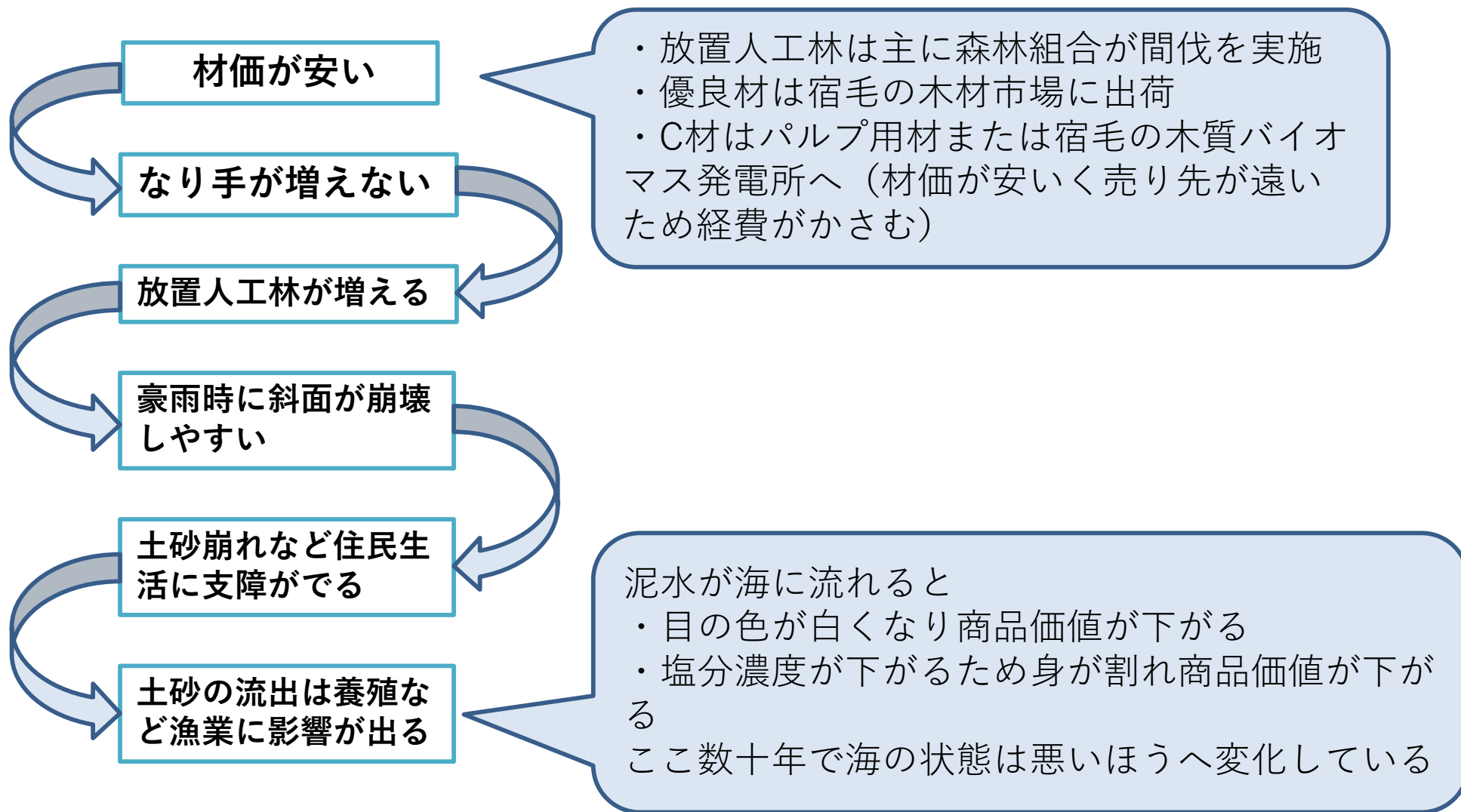


4名

・山師（自伐型林業）

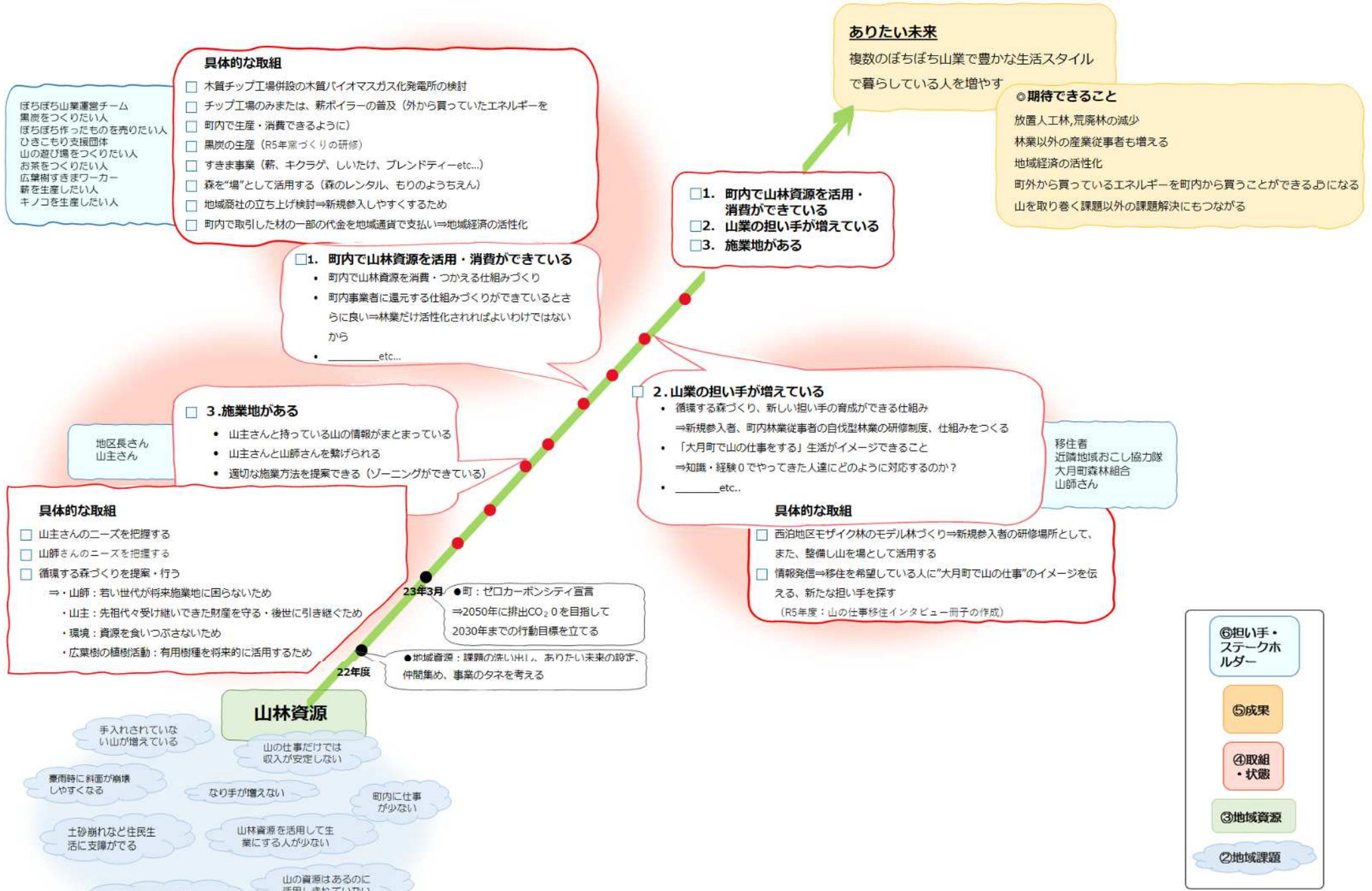


大月町における林業の現状



課題は負のスパイラル状態

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



今年度チャレンジした主な取組内容

取組②「体制を整える」

【活動内容】

- ・木質バイオマス発電の検討
- 先進地視察、運営チームそれぞれの立場で行政に提案

【成果や気づき】

- ・チームワークを発揮
- ・大月町議会産業建設常任委員会が木質バイオマス発電の導入を検討することを提言
- ・大月町脱炭素委員会が重要施策のひとつに森林吸収源対策、方針として未利用の森林資源をエネルギーとして活用（バイオマスガス化発電等）を報告書に盛り込む

【活動の様子（写真など）】



産業建設常任委員会

ゼロカーボンシティを目指して

木質バイオマスについて調査を開始

大月町「ゼロカーボンシティ」を宣言し、二酸化炭素排出量を少なくすると同時に二酸化炭素を吸収する森林を育てることに努めるとしている。大月町の大きなテーマである「人口減少問題」について、産業建設常任委員会から「働き場の創出」を図るため、「林業従事者の育成に努めるべき」と、様々な支援策を提言したが、これらを実現するためには、町内に植となる材の受け入れ先（取引先）が必要であると考え、産業建設常任委員会では、町が宣言した「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、調査を開始した。

【高槻風津和野町】



発電装置

【大分県口津市】



木質チップ

—なぜ木質バイオマスガス化発電を提案したいのか？—

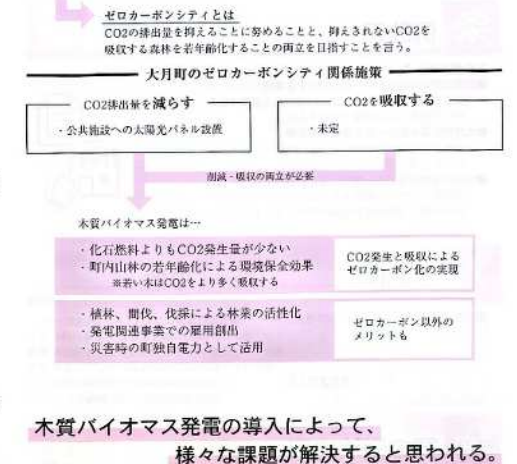
- ①健全な里山づくりをすることにより山、川、海を環境を守る。
 - ②本利用な地域資源の活用によって林業従事者を育成し、生業を創出する。
 - ③災害時にも利用できるエネルギー源を確保する。
 - ④大月で暮らす人が将来にわたって自然の恵みを受け続けることのできる社会を作る。
- これらのビジョン実現の手段のひとつとして木質バイオマス資源利活用（熱電併給）の可能性を調査する。

④ 大月町 議会だより

9月議会だより

産業建設常任委員会 結審報告

ゼロカーボンシティ宣言における再生可能エネルギーの活用方法



よって、

- ①地球温暖化対策実行計画を策定する上で、木質バイオマス発電の導入を検討すること。
- ②公共施設に係る電気量について、木質バイオマス発電を用いた場合の費用対効果及び、FIT制度やJクレジット制度等を活用することについての合理性を調査すること。
- ③災害等における緊急事態の備えとなるよう、福祉施設等への有効な接続方法について調査すること。

を提言した。

12月議会だより

今年度チャレンジした主な取組内容

取組③「事業を考える生み出す」

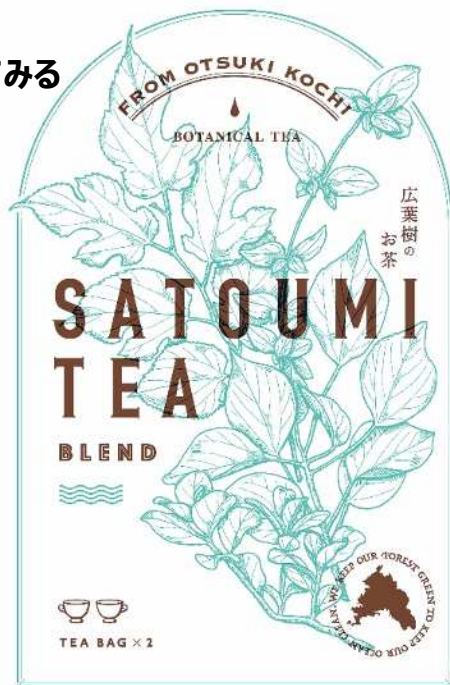
【活動内容】

- ・事業のタネになるかもしれないものを実験してみる
- ・R4年度で取り組んだ事業のタネを形にする

【成果や気づき】

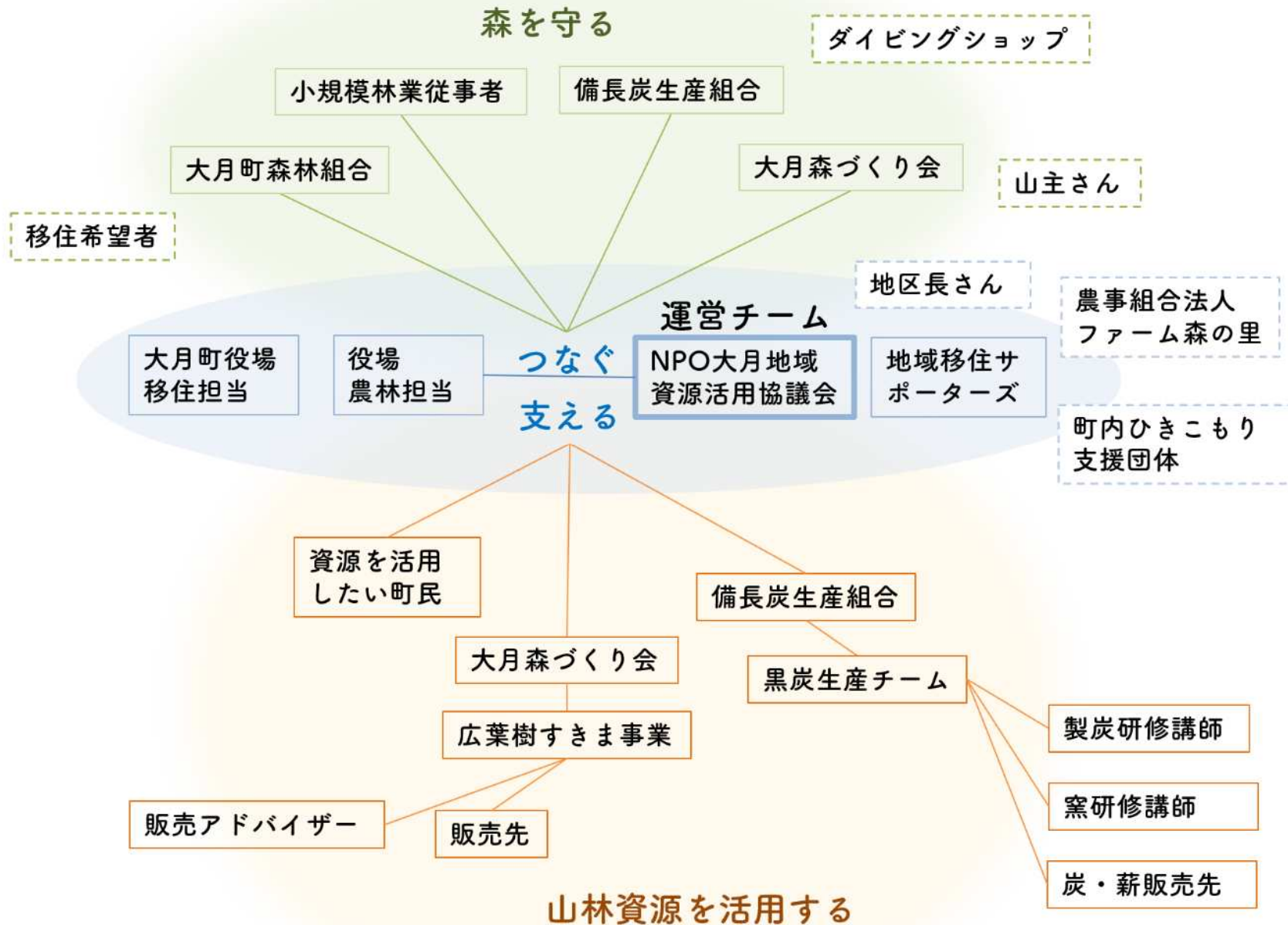
- ・黒炭窯づくり研修
- ・広葉樹のお茶を商品化、販売開始

【活動の様子（写真など）】



現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

【R4年度の地域プラットフォーム】



プラットフォーム形成のポイント

・関係者ではない、と思える人も想定外の情報をもらえる

・こういう状況なら協力してもらえるかもしれない、という仲間が見つかる

・町内のイベントに参加、顔を出すことで関係者の近況を聞いたりこちらの進捗を話したり

・山師さんと繋がるのは大変

・SNSでの発信→仲間が見つかる
・ありたい未来に向けて何をするのかマップをつくる、チームで共有する

・運営チームのチームワーク発揮

・行政との関係性づくり

(ちょっとだけ前進している気がするが、、、)

地域のビジョンを描く

- 地域の関係者の話を仲間と共有する
- ありたい未来と現状との差を把握する
- 地域の構造を可視化・言語化する
- 外部にありたい未来を発信し、反応を得る
-

仲間を探す

- 地域にどんな関係者がいるかを調べる
- 関係者を訪問し、実際に話を聞いてみる
- 関係者と定期的に情報共有を行う
- 関係者に想いやメリットを伝え、参加の機会をつくる
-

体制を整える

- プラットフォームの機能や取組などの全体像を整理する
- 事務局（マネジメント）機能を設ける
- 自治体の総合計画や政策との関わりをつくる
- 実務的な役割をプラットフォーム内外で分担する
-

全ての項目は互いに関わりあっており、順不同

事業を生み出す ※主に「事業化支援」の段階で実施する項目

- 事業/事業計画に関する基礎的な情報を提供する
- 事業計画の内容を聞き、ともに考える
- 先進的な事業を学ぶ機会をつくる
- 事業の試行を支援する
-

事業を考える

- 地域へのインパクト（効果・影響）を考える
- すでに地域にある既存の事業を整理する
- 事業の実施主体や支援者を探し、つながる
- 継続的に事業のタネが生まれる“仕組み”をつくる
-

・近況報告をしていると、ぼちぼち山業をしている人からのお困りごとやこんなことがやってみたい、という声が届くようになる

・なんでもかんでもぼちぼち山業チームが主体になりがち。もう少し分散させたい。

取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

成果

【仲間を探す】

- ・ 地域の人に活動を知ってもらう
- ・ 海で働く人たちと連携できる部分を探す
- ・ 山主さんの本音を聞いた
- ・ 自伐型でやってみても良いかも、という町内の山師さんと繋がることできた

【体制を整える】

- ・ 町の施策として、森林資源の活用を提案することができた

【事業を考える・生み出す】

- ・ 同じ気持ちで取り組む仲間が事業の担い手として取り組んでくれている
- ・ とりあえず商品化につながった

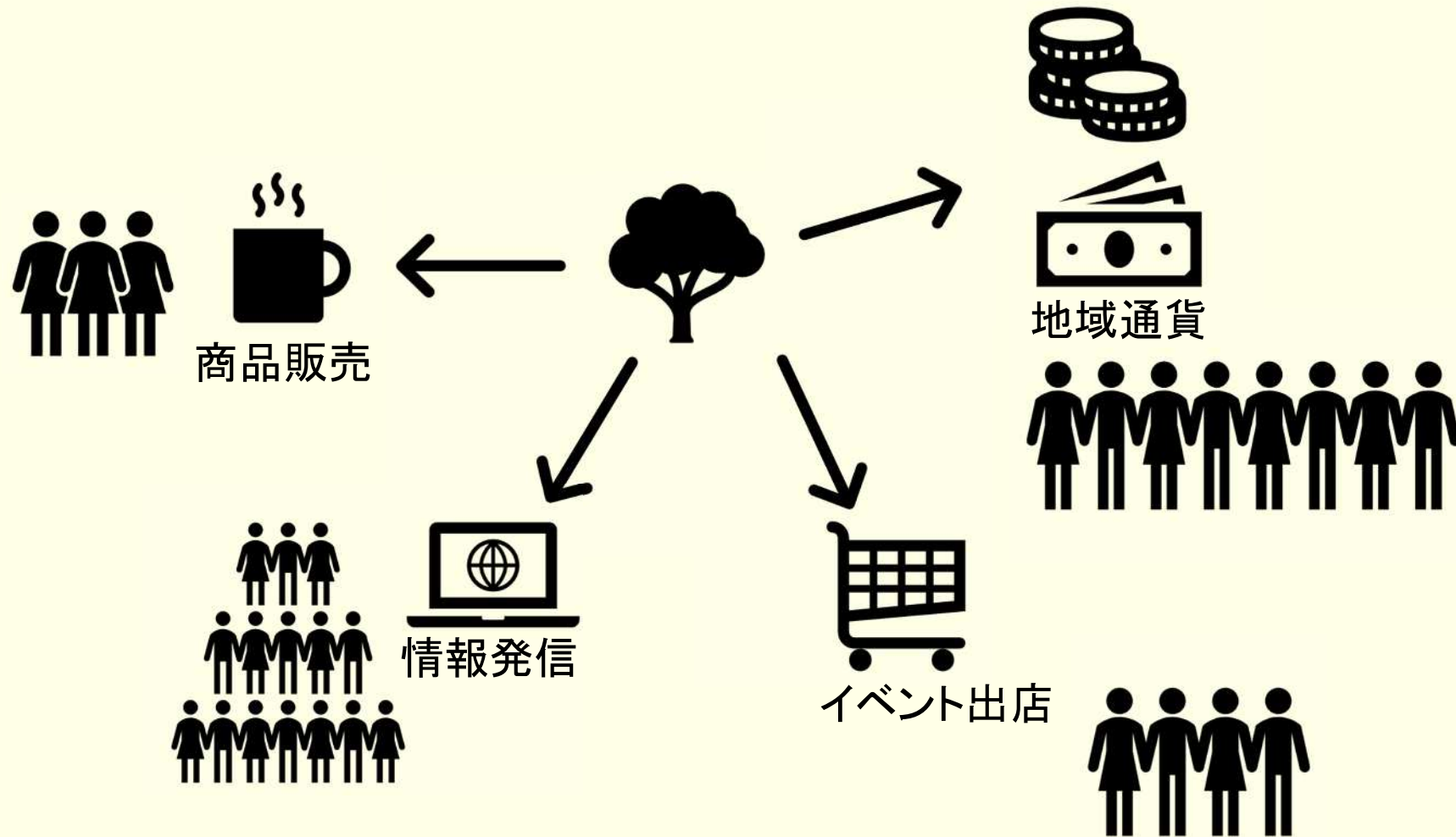
課題

- ・ 行政との関係性を模索中
- ・ 林業への新規参入者を増やすのは簡単ではない
- ・ 聞いてまわってみると、作業道をつけて欲しい山主さんはいるが町内に施業できる人は少ない
- ・ 森林資源の活用について、町に提案することはできたものの今後どうなるかはまだわからない
- ・ 一時的な補助金に頼っていると、コアメンバーの強化が難しい。運営チームの健全な経営体制を築く必要がある

活動における今後の展望

・町内・町外で活動の認知度をあげる

→商品企画・販売をする、情報発信、イベント参加、地域通貨を発行してみるetc,,



山業を入口に林業周辺の課題だけではなく、町内の他の課題も解決できるようになったら良い